

なぜ、なでしこジャパンの監督は女性になったのか

伊崎 里菜 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード：なでしこジャパン，監督，女性

1. はじめに

近年多様な人材を活用し，効果を拡大しようとダイバーシティマネジメント¹組織が声高に叫ばれている。ところが，いまだに団体の統括を行う代表には圧倒的に男性が多く女性が極めて少ない。

社会の縮図といわれるスポーツ界においても，日本ではチームを牽引するチームマネージャーや監督のほとんどが男性である。しかしながら社会的な動向の中，近年女性リーダーの登用の機会が多くなりつつある。サッカー女子日本代表の監督も初の女性となった。

そこで本研究では，なでしこジャパン新監督の高倉麻子氏が起用されたことに着目し，なぜ女性監督が起用されたのかを紐解くことで，女性指導者の優位性について求めることとし，それを本研究のゴールとした。

2. 研究方法

先行文献により以下2点について整理した。

- ①過去から現在までのなでしこジャパンの戦績。
- ②他国の歴代監督。次に，③現役チーム競技者への半構造化面接法を用い，男性監督の差異についてインタビュー調査を実施し，そのエビデンスを整理した。

これらのことをふまえて，リーダーシップ論，動機付けのセオリーの知見と照らし合わせ，女性指導者と男性指導者の女性選手への優位性の検討を実施した。

3. 調査結果と考察

①日本では，現在まで男性監督のみが指導を行ってきた。元日本代表のA男性監督は「女性選手への言葉がけに気遣いを要した。」とっており，特別な気遣いを要することが分かった。

②FIFA ランキング 2位のドイツでは，2000年代に入ってから女性監督しか起用していない。他のトップ4チームに関しても女性監督を起用している傾向がある。

③図1は，インタビュー調査の結果をまとめた

ものである。男性指導者は暴言やボディータッチなどがデメリットとして挙げられ，このことから外発的動機付け指導を行っているケースが多い。その反面，女性指導者は何も言わなくてもわかってくれるという深層心理理解から，内発的動機付けを行っているケースが多いことが分かった。

	男性指導者	女性指導者
メリット	・単刀直入に指示を出してくれる ・技術指導が分かりやすい ・負けたくないと思える	・プライベートのことも話しやすい ・何も言わなくてもわかってくれる(月経) ・境界が分かる ・同じ目線で考えてくれる
デメリット	・ボディータッチ ・暴言が多い ・怒ると怖い ・ペナルティーが多い	・厳しくない ・怒っても怖くない ・言い方が回りくどい

図1：インタビュー調査のまとめ

4. まとめ

図2は，女性競技者を指導する際の女性指導者の優位性についてその傾向を本研究のエビデンスからまとめたものである。男性指導者が女性選手を指導することは，ハラスメントの問題が起りやすいといえる。これは，同性同士ではほとんど起りえない。監督は，フィールド以外のことで競技者が弊害なく競技に集中することができるように指導しなければならない。女性指導者は身体的特徴についてよく女性選手を理解し，競技者が内発的な行動を行うように指導する。このことは，スポーツに対する好意の増幅により競技継続につながるのである。

これらのことから，女性競技者に対して同性である女性指導者が指導をする方が，男性指導者よりリスクが少なく優位性があることが理解でき，これを本研究のまとめとする。

女性指導者→女性競技者	男性指導者→女性競技者
① フラットな関係 ↓ 内発的動機付け	① ハラスメント ↓ 外発的動機付け
②女性の深層心理理解	②女性の生理的不理解
③趨勢(世間のスタンダード)	③陳腐化

図2：女性競技者の優位性 (筆者作成)

主な引用参考文献

井村雅代ら (2001)「女は女が強くなる」草思社ほか

¹ ダイバーシティマネジメント 個人や集団に存在する様々な違い，多様性を生かすために組織を変革しようとするマネジメント。女性が差別なく働くことができるようになること。